

# I-1

## I . 医療面接 基礎編

# 医療面接 学びはじめ

森 洋平

三重大学医学部附属病院 総合診療科 助教

Point **1** 医療面接の各構造を知り、重要ポイントを学ぶ。

Point **2** 医師よりも患者が多く話す医療面接を目指す。

Point **3** 非言語的コミュニケーション初級編である「頷き」「促しの手」「目線」を使うことができる。

### はじめに

本特集読者のほとんどの方が経験された客観的臨床能力試験 (objective structured clinical examination ; OSCE) は、医学生 の 階 階 で 必 要 と さ れ る 基 本 的 な 臨 床 能 力 を 全 国 的 に 一 定 水 準 に し て、臨 床 実 習 を 見 学 型 か ら 参 加 型 に す る こ と を 目 的 に、2007年より開始されている。皆さんは、その 当 時 に 学 ん だ こ と を ど れ ぐ ら い 現 在 の 臨 床 に 生 か せ て いる だ ろ う か？

あまり実感はないかもしれないが、患者とコミュニケーションを取るためのトレーニングを経験しているというのは非常に大きい。なぜならば、共用試験OSCE以前の研修医の多くは、最初に自己紹介して患者確認をすることなんてできなかったし、問診の最初は開放型で質問するなんて何処でも習ってこなかったからだ。だから、みんな、臨床に出てから先輩の背中を見て学んでいたが、見る背中を間違えると悲惨なことになっていた。

### 守破離

「守破離」とはある道を極めようとする際の成長や発達段階を示した言葉である。「守」は、型をしっかりと学びそのとおりに実践できる段階、「破」は学んだ型を礎に、それまでの経験を踏まえ応用して実践できる段階、そして「離」は、型からも離れ新たに創造したものを実践できる段階とされる。

医療面接において、共用試験OSCE以前は、いきなり「離」から始まっていた人も少なくなかった。現代の研修医の皆さんにはぜひとも医学生 の 頃 か ら 学 ん だ 「型」を踏まえて、学びつづけていただきたい。本章では、医療面接 基礎編として、共用試験OSCEで学んだであろう医療面接の基本(「守」)について、若干の応用(「破」)も交えながら振り返っていききたい。

#### 間違い探し

説明を始める前に、下記の問題に取り組んでいただきたい。答えは本章を読めばわかる！

**Q** 図1の医療面接の風景の中から間違いを6つ見つけてください。

### 1. 医療面接の構造とそのポイント

医療面接はいくつかのパートで構成されている。それぞれのパートには、なすべき役割や意味がある。

#### 診察前パート

患者が診察室に入る前の準備を忘れてはならない。診察前に確認すべきチェックポイントを表1に示す。医療のような不確定な内容を多く含むコミュニケーションにおいては、メラビアンの法則が示すように、**言語情報以外にも目を配るべきである。**

#### オープニングパート

オープニングパートは、呼び入れや挨拶、自己紹介や患者確認、そして病歴聴取の導入で構成される。オープニングパートで心がけるべきチェックポイントを表2に示す。

患者と初対面であった場合、このパートから患者医師関係の構築が始まる。自己紹介や「お待たせしました」や「どうぞこちらにお掛けください」などの声掛けは、医療者が思っている以上に効果的である。**とくに忙しい外来や自分がイライラしたり不安だったりするときこそ、ぜひとも行ってほしい。**

陪席者がいる場合には、自己紹介→患者確認の後に、患者との関係を確認する。目線を陪席者に移したり、手によるジェスチャーをしたりして、陪席者の自己紹介を促す。**このような型を身につけることで、「お母さんをおばあちゃんと言ってしまう事件」や「旦那さんをお父さんと言ってしまう事件」が予防できる。**



図1 医療面接の風景

表1 診察前チェックポイント

髪型・服装・体臭・口臭をチェック
ふさわしいとはいえない髪型・服装・装飾品ではない？
煙草やコーヒー、香水や整髪料の匂いは？
さっき食べたものは大丈夫？ ドリアン食べていない？
診察室の環境はコミュニケーションを取るにふさわしいかチェック
机と椅子の配置は適切？
プライバシーは守られる環境？
飲みかけや食べかけのものが置かれていない？
患者さんは衣服を脱ぐかもしれないけれど室温は大丈夫？
家族など陪席者がいる場合の椅子は用意されている？
必要物品をチェック
聴診器や舌圧子、その他診察に必要な物品は準備されている？
医療安全面チェック
診察する患者さんの名前を事前に確認しよう (これまでのカルテ履歴もあれば必ず確認！)
高齢者や意識障害を伴った患者さんであれば転倒予防の対策にも配慮

表2 オープニングパートチェックポイント

呼び入れ
杖歩行や車椅子の人の場合には、ドアを開けるなどの配慮が必要
とくに病院の決められたルールがなければ、名前で呼び入れる
着席や手荷物の置き場所への配慮も忘れずに
自己紹介と患者確認
同じ目線での挨拶が原則
患者確認とともに陪席者がいれば、どのような関係かも確認
病歴聴取の導入
辛い様子が見受けられれば、座っての面接が可能かなどの配慮を行う
すぐに閉鎖型質問に移らず十分に患者の訴えを聴く